

財団法人 まちみらい千代田

イベントの経済波及効果等評価に関する調査

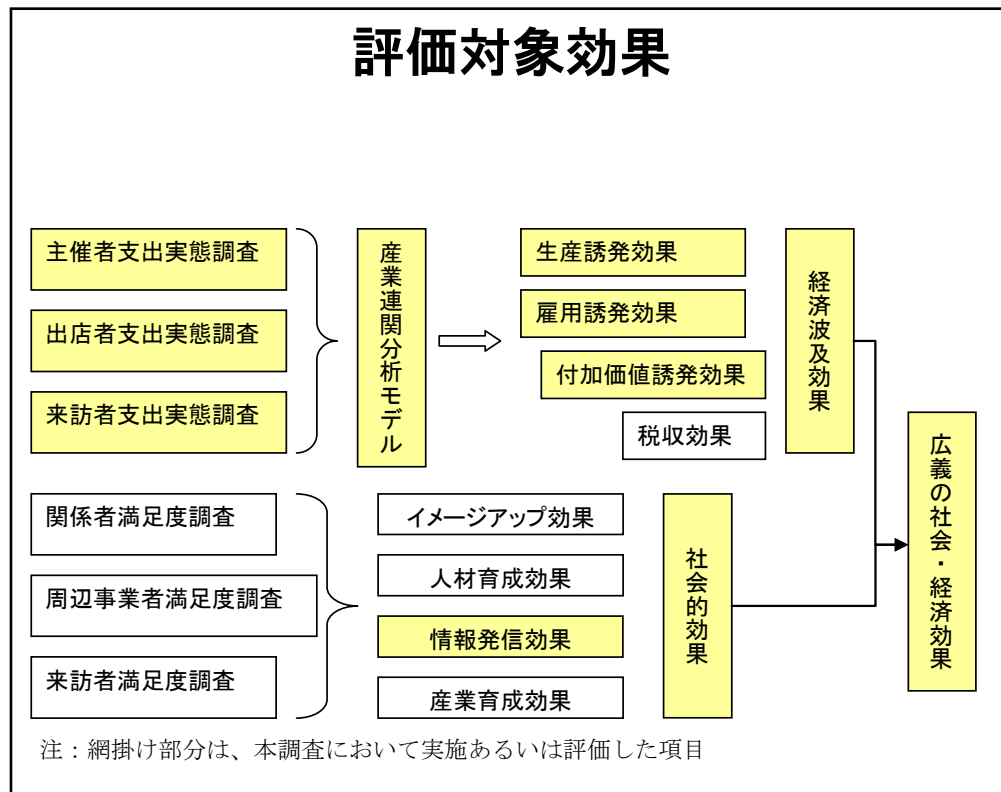
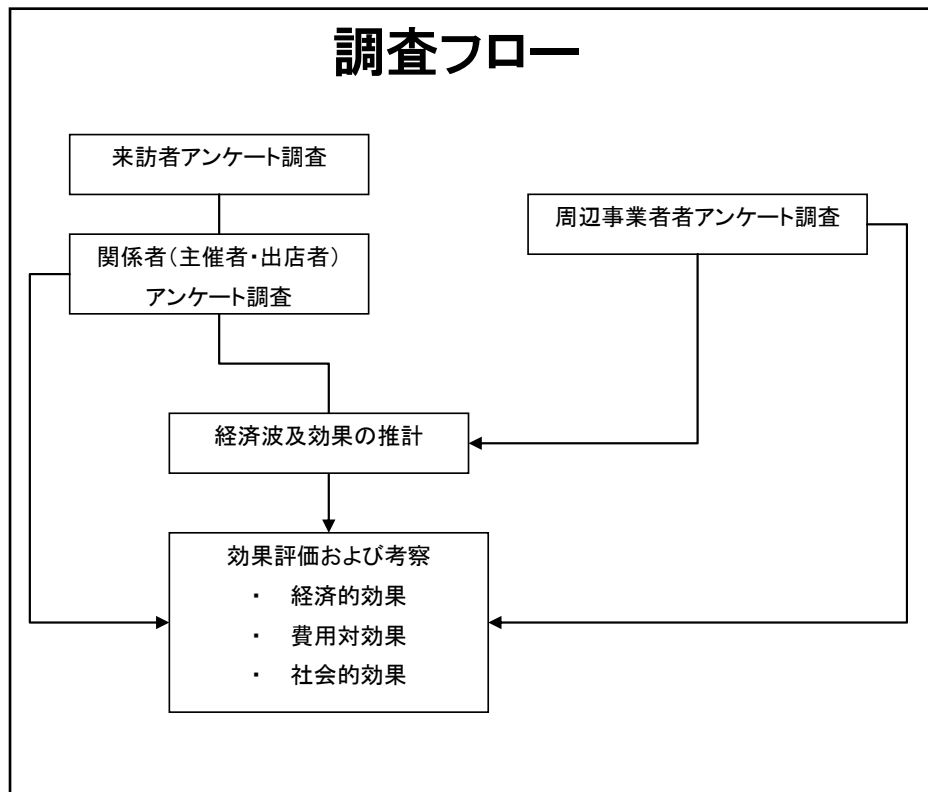
報告書(概要版)

2008年6月

■調査方法

千代田区内で開催されるイベントの、会場および周辺での消費や事前の出店などに伴う支出がもたらす、経済波及効果について、イベント来訪者および関係者(出店者および主催者)へのアンケート調査を行い、これをもとに消費額および投資額を算定し、平成12年東京都産業連関表を用いて、経済波及効果を推計した。

イベントの経済波及効果を定量的に計測するとともに、千代田区のブランドイメージや歴史・文化等情報発信という側面から、各イベントの現状について評価するとともに、今後の方向性について検討した。



■調査対象イベント1

I. 江戸天下祭

- ・主催:千代田区江戸天下祭実行委員会(事務局:(財)まちみらい千代田)
- ・共催:千代田区、千代田区観光協会
- ・期間:平成19年9月29日(土)~9月30日(日)
- ・会場:日比谷公園(メイン会場)、丸ビル(サブ会場)など

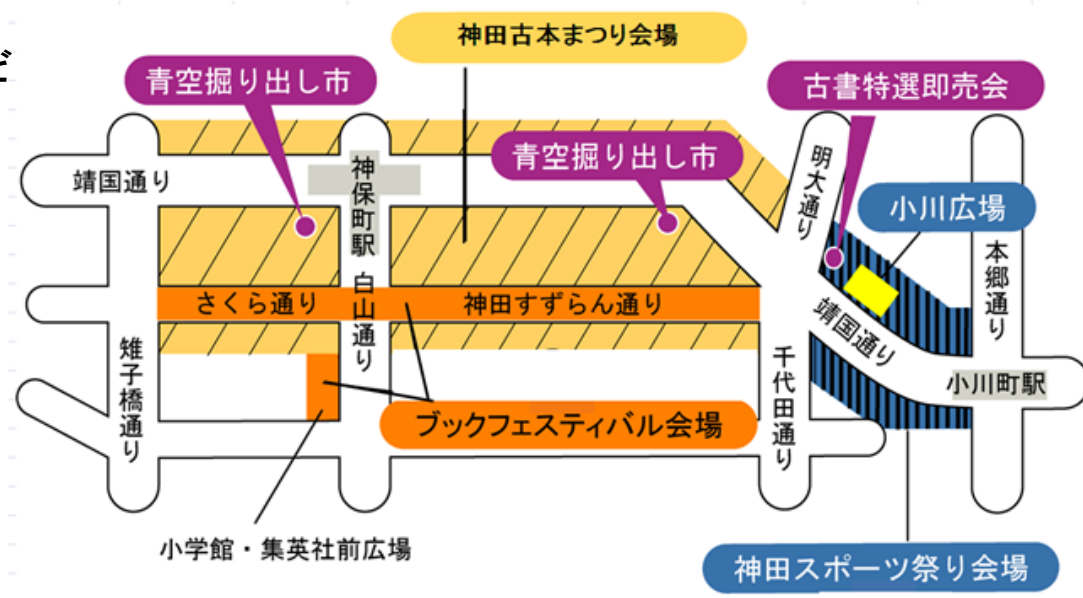
- ・主なイベント:江戸フェスティバル(日比谷公園)、山車・神輿宵宮順行、神輿・山車等の展示(丸ビル)など
- ・開催実績:2003年から隔年開催(3回目)
- ・千代田区としての事業目的:文化振興、千代田区の魅力の国内外への情報発信、国際交流・地域交流、区民参加 など
- ・出店者:他府県自治体・企業、区内の官民団体(町会連合会、伝統工芸事業者、各国大使館など含む)
- ・参加・来場者:23.7万人(主催者発表)



■調査対象イベント2

II. 神田古本まつり

- ・主催:千代田区、神田古書店連盟
- ・期間:平成19年10月26日(金)~11月1日(木)
- ・会場:神田神保町古書店街
- ・主なイベント:青空掘り出し市、特選古書即売展、古本チャリティーオークション
- ・神保町ブックフェスティバル、神田スポーツ祭りが同時開催
 - ・開催実績:第1回は1960年開催(48回目)
 - ・千代田区としての事業目的:産業振興など
 - ・出店者:神田古書店連盟加盟店
(約100店舗)
 - ・参加・来場者:30万人(推定)



■調査対象イベント3

Ⅲ. 千代田さくらまつり

- ・主催:千代田区、千代田区観光協会
- ・協賛:千代田区商店街連合会、東京商工会議所千代田支部、千代田区商工業連合会、(財)まちみらい千代田
- ・期間:平成20年3月28日(金)～4月6日(日)
 - ・会場と主なイベント:千鳥ヶ淵緑道(桜花のライトアップ)、靖国神社(植木市、さくらフェスティバル)、神田神社(物産販売など)、九段坂公園(史跡案内ガイド)
 - ・開催実績:第1回は1959年開催
 - ・千代田区としての事業目的:観光振興など(区の花さくらを重要な観光資源として、開花時期にあわせて他の観光資源・イベントと連携)
 - ・参加・来場者:101万人(千鳥ヶ淵緑道来場者)



■効果計測の方法

来場者アンケートは、性・年齢階級別に消費行動の差異を統計的に検証するために必要な票数を、面接方式で確保した。来場者アンケートから消費単価を算定した。関係者アンケートは、事務局および出店者の支出について、支出先を特定する設問とし、区内および都内における効果を評価した。

これら直接効果に対する間接効果を、東京都産業連関表を用いて算出した。区内への効果については、事業所・企業統計を参考に、都内全体への効果の一部として分離し評価した。

アンケート調査実施・回答状況

I. 江戸天下祭

- (1)来場者調査 — 回答者数:689人
- (2)周辺事業者調査 — 大丸有エリアマネジメント協会の協力を得て、10棟のビルから回答
- (3)主催者および出展者調査 — 46出展団体

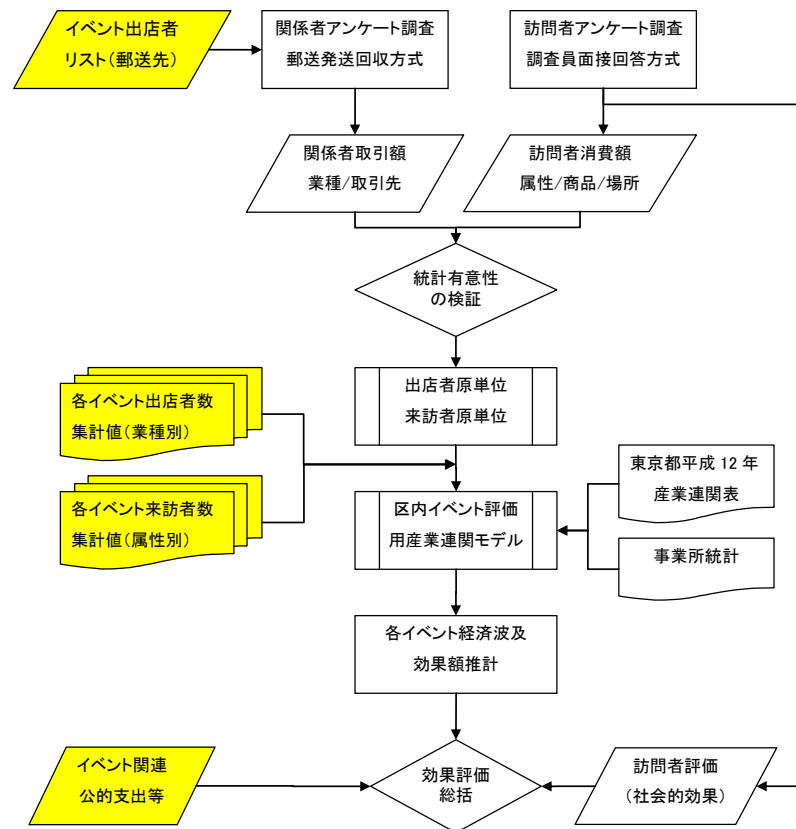
II. 神田古本まつり

- (1)来場者調査 — 回答者数:583人
- (2)周辺事業者調査 — グリューネ・アレー通り商店会、駿河台下グリューネ・アレー通り会の協力を得て、17事業者から回答

III. 千代田さくらまつり

- (1)来場者調査 — 回答者数:625人
- (2)周辺事業者調査 — 九段下さくら会の協力を得て、11事業者から回答

経済波及効果の推計方法



■効果の計測結果

参加・来場者数は、さくらまつり101万人、古本まつり30万人、天下祭23.7万人である。ただし、天下祭の経済波及効果の計測は、日比谷公園における江戸フェス参加者を対象として推計した。

右下のグラフは、三つのイベント間で、生産波及効果と粗付加価値額および来場者数を比較したものである。来場者数が天下祭の約1.3倍である古本まつりは、生産波及効果で4倍、粗付加価値額ではさらに大きく4.6倍となっている。来場者に比して効果額、とくに粗付加価値額が大きいのは、古本という単価の高い物販がイベントの目玉となっているためである。

一方、さくらまつりは見物客が主であり消費単価が相対的に小さく、来場者が多い(4.2倍)割には、生産波及効果、粗付加価値額ともに5.7倍に留まっている。

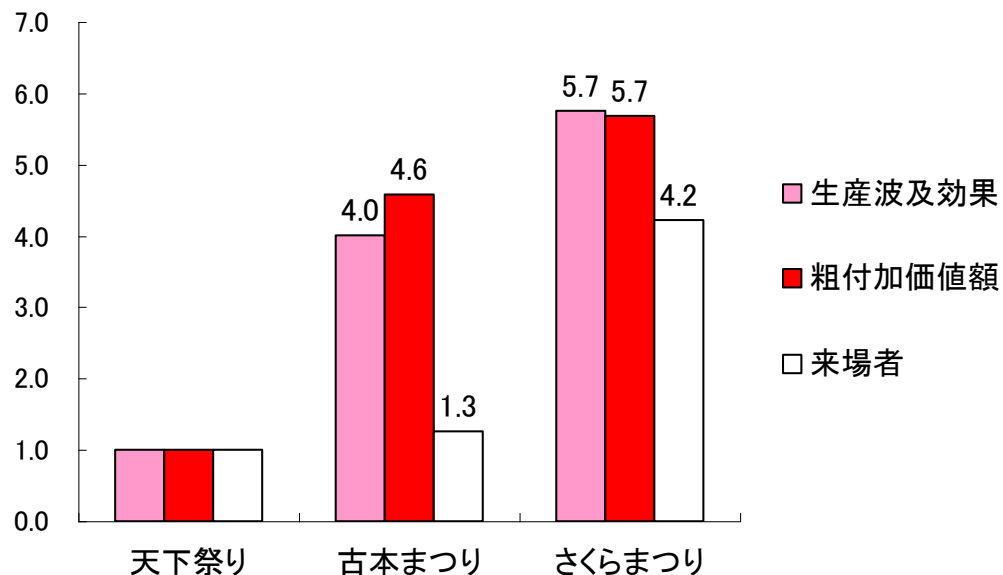
区内の事業者の付加価値(営業余剰や雇用者所得)と事務局の経費を比較した場合、さくらまつりや古本まつりは大きく経費を上回る付加価値の増加が計測されたが、天下祭についても1.7と相対的には低い数値ではあるものの、事務局経費を上回る効果が、区内に付加価値としてもたらされることがわかった(右上表)。

波及効果と費用対効果比の比較

		天下祭り		古本まつり		さくらまつり		
効果	生産波及	全国	21.6	10.0	82.4	∞	118.0	311
		都内	9.9	4.6	39.7	∞	56.9	150
		区内	7.2	3.3	30.7	∞	44.0	116
	粗付加価値額	全国	11.3	5.2	46.4	∞	61.1	161
		都内	5.3	2.4	24.3	∞	30.1	79
		区内	3.7	1.7	19.8	∞	22.3	59
事務局経費等		2.2		0.0		0.4		

左:単位=億円、右:費用対効果比(効果額÷費用)

天下祭の水準を1としたときの他のまつりの倍率



■各イベントの来場者、出店者の特徴、傾向

古本まつりは、古本購入を目的とした来場者が中心でリピーターの割合が高く、また、都外客の割合も比較的高い。さくらまつりは、花見目的の来場者が多く、リピーターの割合も比較的高いものの、イベント自体の事前認知度は高くはない。また、区民の来場割合が高い。

これらに比べると、天下祭は認知度、リピーターの割合とも低いが、職域での出店参加も多いことから昼間区民の参加割合が他に比べて高い。イベントの出店者からみると、天下祭は、区内の公共・民間の様々な団体や姉妹都市、および文化交流等を行う各地の団体などが参加する、区内最大の交流機会となっている。また、出店関係者の来場も多い。

	江戸天下祭	神田古本まつり	千代田さくらまつり
参加・来場者	23.7万人 (主催者発表)	30万人 (会場全体来場者)	101万人 (千鳥ヶ淵緑道来場者)
参加・来場者の特徴、傾向	<ul style="list-style-type: none"> <参加・来場者の属性> ○昼間区民の参加割合が高い ○他の2つのイベントの認知度、来場経験が高い <認知媒体> ○新聞・雑誌による認知が多い <参加・来場者の行動> ○飲食の購入割合が高い 	<ul style="list-style-type: none"> <参加・来場者の属性> ○1人で来場する割合が高い ○リピーターの割合が高い <認知媒体> ○インターネットによる認知が多い <参加・来場者の行動> ○物品、飲食とも購買割合が高く、物品は購買単価も高い ○会場内の滞在時間が長く、回遊性が低い 	<ul style="list-style-type: none"> <参加・来場者の属性> ○区民による来場割合が高い ○家族での来場割合が高い ○リピーターの割合が比較的高い <参加・来場者の行動> ○事前の認知度が低い ○物品、飲食とも購買割合が低い ○回遊性が高い
イベント出店者の特徴、傾向	<ul style="list-style-type: none"> 区内の官民団体(町会、伝統工芸職人、企業、各国大使館等を含む各種団体)、他府県の自治体、企業など ○過去2回の江戸天下祭への参加・出店実績がある場合が多い ○当該イベントで千代田区内のイベントに初めて参加する場合が比較的多い ○出店者の関係者の来場が多い ○今後の出店意向も高い 	<ul style="list-style-type: none"> 神田古書店連盟加盟店(約100店舗) 	<ul style="list-style-type: none"> さくらフェスティバル(靖国神社)では、区内商店・観光協会会員等が物産・飲食店を出店。その他、神田神社の物産販売など。

■来場者、周辺事業者、出店者による各イベントの評価

来場者からは、天下祭では、江戸文化振興、千代田区の情報発信等の事業目的に沿った感想が得られている。一方、古本まつりやさくらまつりでは、イベントよりも古本探し、花見自体を評価する感想となっている。周辺事業者からは、さくらまつり、古本まつりでは肯定的評価が多い一方、天下祭では相対的に肯定的評価が少なく、山車・神輿の順行見物者に係るマイナス影響の指摘もある。また、天下祭の出店者からは、情報発信、地域・社会貢献、商品販売等の目的に沿った成果が認識されていることがうかがえる一方、来場者用テント設置等の雨対策等の改善要望がある。

		江戸天下祭	神田古本まつり	千代田さくらまつり
来場者	来場経験と今後の参加意向	○過去の来場経験、認知度は低いものの、今後の参加意向は比較的高い	○過去の来場経験が高く、今後の参加意向も高い	○過去の来場経験と今後の参加意向の割合がほぼ同程度
	感想	○江戸の文化・産物等にふれられた、との感想が多い ○千代田区への理解が深まったとの感想が比較的多い ○いろいろな人との交流ができた、との感想も比較的多い ○にぎやかで楽しめた、との感想が約半数と多い	○古本探しが楽しめた、との感想が多いが、本の街として楽しめた、との感想も多い ○にぎやかで楽しめた、との感想はあまり伸びていない	○桜花が楽しめた、との感想が圧倒的に多い ○いろいろな文化イベントが楽しめた、との感想は相対的に少ない ○にぎやかで楽しめた、との感想はあまり伸びていない ○さくらを守っていくことへの興味、関心ありとの回答は6割にのぼった。
周辺事業者	イベント影響	プラス30%、トントン40%、影響なし30%	プラス47%、トントン6%、影響なし29%	プラス73%、トントン9%、影響なし18%
	売上以外に関するプラスの影響	・街のにぎわい創出 ・丸の内の認知度向上 ・集客増によるブランドの認知度増	・来街者数の増大による街の活性化 ・来街者数増による、新規顧客獲得の機会増	・まつりによる集客力の向上 ・土日に出が見込める
	売上以外に関するマイナスの影響	・喫煙者のタバコにおいて ・店前に座り込む人(係員の注意もなし) ・酔っぱらいの冷やかし ・仲通りの横断が出来ず、案内もなかった ・騒がしく、店の雰囲気と合わない		・混雑の限界を越えている
	改善すべき点、留意すべき点等	・祭り終了後の回遊性があるので昼間開催のほうがよい ・周辺エリアの店舗(飲食)のリーフレット等による周知	・書籍関係以外のイベントの共催 ・イベント開催期間の延長	・武道館・靖国神社の歴史、日本の歴史についてのイベント開催、積極的な情報発信

■考察 ～今後の事業のあり方～

3つのイベントは、これまでの歴史、認知度・集客力、千代田区の関わり方とその狙いも異なる。古本まつりとさくらまつりは既に確固とした集客力を有し、周辺事業者からの評価も概ね好意的であり、今後は、それぞれの集客対象を意識しつつ、その高いポテンシャルを千代田区としていかに戦略的に活用していくかが取り組みの課題となる。

江戸天下祭は、千代田区が文化振興、情報発信、国際交流・地域交流等の狙いをもって、新たな「ことおこし」に取り組んでいるところである。まだ、3回目の開催ということもあり、認知度は低いものの、来場者、出店者などのイベント参加者からは江戸文化体験、賑わい・交流機会創出などについての評価は高く、多くは今後の参加・出店にも前向きである。今後は改善に向けた要望・提案も踏まえ、より魅力あるものに再構築していくことが期待される。

1. 江戸天下祭 ～区民、昼間区民等を巻き込む「江戸文化」活動報告の場に～

- 千代田区のアイデンティティとしての「江戸文化」を軸にした巻き込み型イベントとしての再構築
- 認知度の向上
- 周辺事業者との連携強化(来場者の適切な誘導と街の情報発信による、街のブランディングへの貢献)
- 雨天対策の強化

2. 神田古本まつり ～地域外からの集客力を活用した情報発信強化と回遊促進～

- 千代田区の情報発信機会としての活用
- 周辺事業者との連携強化(より広域な店舗情報の提供等による消費、回遊促進)

3. 千代田さくらまつり ～区民を対象とした文化イベントの拡充～

- 住民参加型のさくら関連文化イベントの拡充